

評価以前の問題

人文学・社会科学とは何なのか

中尾 央

hisashinakao@gmail.com

山口大学国際総合科学部

Take Home Message

- (1) 人文系...がそもそも多様なもの
 - ・色んなアプローチがあり, 色んな評価軸を要する
 - ・一部のアプローチは理系の一部と評価軸を共有するかも
- (2) 人文系の評価問題...という問題設定も良くない
 - ・結局学術全体の問題であって, 人文系だけの問題にしてはいけない
- (3) 評価は誰がするべきなのか
 - ・評価を他人事・人任せにしない
 - ・自分たちの実態をもっと積極的にどう評価して欲しいのか声を上げていくべき

多様な人文学・社会科学

- 人文学・社会科学とは何なのか
(社会科学は野村さんにお任せして...)
- 野家 (2013) 「人文学の使命：スローサイエンスの行方」
 - (1) 日常的思考において自明視されてきた事柄をも問い直す『思索力・洞察力』
 - (2) 異質の他者の存在を受容し、理解し、共感しうる『想像力・感性』、そして
 - (3) 異質な声を聞き分けつつ他者に応答する『対話力』

多様な人文学・社会科学

■ 野家（2013） 「人文学の使命」（続）

人文学の研究成果が論文の改訂を経て書物としてまとめられるまでには、通常二、三年を要する...人文学では論文は書物となる前段階、いわば『草稿』

人文学は、速度と効率を優先させる市場価値には還元できない別次元の価値が厳として存在することを、『スローサイエンス』の旗印のもとに積極的に言挙げすべき

多様な人文学・社会科学

- 半分くらいは同意. 残り半分は大分微妙.
 - ・ 使命 (I) とかスローサインエンスである「べき」か？
 - ・ あとは人文学の捉え方が極狭な気が
- たとえば私 (科学哲学) のやっていること
(私が人文学かどうかなのかさえわからないが)
 - ・ 論文は本の草稿か？
 - いやいやいやいや. 論文だってそれなりに大事.
 - ・ スローである「べき」か？
 - いや別に早くできならそれはそれで良いのでは.

多様な人文学・社会科学

- 別の事例として：考古学
 - ・ 発掘調査報告書だって凄く重要だし，発掘はそんなにスローにやってはられないものではない
→むしろ結構早めに終わらせないといけないものも多数
- 以上踏まえると：
 - ・ 野家のイメージする人文学はスローである「べき」なのかもしれないが，実態はどう見てもそんな単純なものではない。
→じゃあ実態はどうなのか？

分野を超えた評価軸

- 分野思考はもうやめよう
 - ・ 人文学でも早くでいい仕事もたくさんある
 - ・ 自然科学だってスローであるべき仕事はたくさんある
例：地球惑星科学（の一部）、生物学（の一部）、
あとは教育だってそう早くできるもんじゃない
 - ・ しかも人文学・社会科学・自然科学の境界さえ色々曖昧になりつつある
→ 分野思考の崩壊

分野を超えた評価軸

- 多様な基準は人文・社会科学だけでなく，自然科学でも
 - ・ 色んな研究のあり方があるという当然のことを，
そろそろ分野を超えて共有すべきでは
 - 理論系， 実験系， 記載系， ...etc.
 - 人文・社会科学の評価問題は翻って自然科学，
学術全体の評価問題でもある
 - 科学哲学ってこういうこともっとやっても良いと思う

評価を他人事にしない

- 最後に：評価は他人事ではない
 - ・ 数で評価するのはもちろん大事
 - 数にできるものはすべき：どう数にしていくか
 - ・ 数に現れないものをどう評価するのが問題
 - どうすればいいか
 - ・ 多様な評価基準を設定していくため、多様な研究者の参画が必要になるかも
 - 研究者は評価を（完全な）他人任せにしない
 - 年長研究者だけでなく、若手の役割も
 - 評価側ももっと研究者側に寄り添っていくべきでは

Take Home Message

- (1) 人文系...がそもそも多様なもの
 - ・色んなアプローチがあり, 色んな評価軸を要する
 - ・一部のアプローチは理系の一部と評価軸を共有するかも
- (2) 人文系の評価問題...という問題設定も良くない
 - ・結局学術全体の問題であって, 人文系だけの問題にしてはいけない
- (3) 評価は誰がするべきなのか
 - ・評価を他人事・人任せにしない
 - ・自分たちの実態をもっと積極的にどう評価して欲しいのか声を上げていくべき